20210307レムナント教会1部

**紅海の正体(生き方の切り替え)（出エジプト14:15-20）**

　イスラエルの民がエジプトで400年間、奴隷の生活をしていました。神様はモーセを通して羊の血を塗ることによって、つまり、過ぎ越しの奇跡を通して、エジプトからイスラエルを出エジプトさせられます。それから、約束の地カナンに向かわせることになりましたけれども、神様が一番最初に出エジプトしたイスラエルの民を連れて来られたところが紅海という海でした。実は陸地からカナンの地に行く方法もありましたけれども、神様は紅海の前にイスラエルの民を連れて来られました。しかも後ろからはエジプトの兵隊たちがイスラエルを殺すために追いかけて来ている、四面楚歌のような状況に追い込まれてました。そこでイスラエルの民は当然ながら戸惑いました。「なぜ出エジプトした後、私たちはこんな目に遭わないといけないのか。この紅海は渡ることもできないし、船もないし、全く不可能な状況なのに、なぜ神様は私たちをここに連れて来られたのか」と皆が不平不満を言い始め騒いで、挙句の果てには「エジプトの方が良かったよ。何でここまで来たのか」と後悔までしてました。しかし、神様はその紅海が分かれるようにし、乾いた地のようにイスラエルの民が紅海を渡り、追いかけてきたエジプトの兵隊はその紅海の中で皆死んでしまう奇跡をなさいます。それを見るまではイスラエルの民は戸惑い、落胆し、気持ちが暗くなるしかありませんでした。

なぜ神様は紅海というある意味、不可能に思われる壁のようなものを信者の行く道に許されるのでしょうか。なぜイエス様を信じて救われて、これから天国に向かって希望にあふれた勝利の道を歩んでいくはずなのに、紅海のような壁が立ちはだかるようになるのでしょうか。そこで多くの信者が、イスラエルのように落胆しつぶやいて失敗をしてしまいます。それは紅海という目の前にある問題を見るだけで、その本当の正体が何か分かっていないからです。神様は聖書に記録を残して、今を生きるクリスチャンの私たちに信者の目の前に現れる問題、それが何なのか、なぜ神様はそれを許されるのかということを教えていらっしゃいます。神様はこの紅海が不可能だということもご存知です。しかし、神様が許されたものだということを忘れてはいけません。この紅海はイスラエルの民を脅すためのものではありません。イスラエルに苦しみを与えていじめるためのものでもありません。そこには大きな大きな神様の導き、配慮というものがあったわけです。この紅海はイスラエルが出エジプトして約束の地カナンに向かっていく旅程の中一番最初にぶつかった問題だということを心に覚えて、それからメッセージを聞いていただきたいなと願います。

1.紅海は神様の救いの偉大さを思い出させ、実際、信者の胸に神様の偉大な救いに判子を押してもらうために神様が許されたものです。

 言葉を変えて申し上げますと、紅海という問題は単なる問題ではありません。これから救われた神の民は様々な問題にぶつかるようになりますが、その問題を見てああだ、こうだと考える以前に、イスラエルにとっては出エジプト、私たちにとっては偉大なるキリストによる救いを先に思い出して、先に確認して、先に告白してもらうための神様の配慮なのです。そして、そのような生き方に切り替えてもらうために神様がわざわざ陸地もあるのに紅海の前に、問題だと思われるところに連れてこられたということを正しく理解していないと、いつまで経ってもつまずきばかりになるしかありません。紅海より先にそれよりはるかに優る偉大なる出エジプトの救いを思い出しなさい。人間のレベルから見たときには不可能に思われるその問題より、はるかに優るキリストの十字架による救いの偉大さを先に思い出しなさい。そこに自分自身を、自分の思いを、自分の心を縛り付けなさい。これがこれからのクリスチャンの生き方なのです。今までにはなかった世の中には見られない新しい生き方がそこにあります。それこそがカナンに向かって勝利の道を歩んでいくための必修なのです。神様はクリスチャン、救われた者に紅海を許されることによって、イスラエルのレベルから見たときには戸惑うしかない問題を許されることによって、生き方を切り替えようとしていらっしゃいます。あなたがたは、昔のあなたがたではない。以前の自分ではないのだよ。

つまり、紅海というものは、羊の血によって以前のものは過ぎ去り、それに判子を押すための神様の配慮なのです。

　戸惑わないように、つぶやかないようにしましょう。以前はエジプトの奴隷でした。お金があるかないか。元気なのか病気なのか関係なく、根本的に身分そのものが奴隷だったわけです。エジプトの奴隷が問題ではありません。救われる以前はどういう人生を生きてきたのかとは全く関係なく、実は私たちはヨハネ8：44、悪魔を父と呼ぶしかない、悪魔の奴隷として捕らわれていた者なのです。エペソ2：1-3、生まれながら神の御怒りを受けるしかない存在でした。悪魔、サタンが好きな方に自動的に連れて行かれるしかない存在だったわけです。自分の罪と罪過の中で死んでいた者なのです。なのでどんなに頑張ってもローマ8：2、死と罪の原理の中に閉じ込められていたので、滅びののろいの運命に捕らわれて、地獄の運命の中を生きるしかない存在でした。なので右に転ぶか左に転ぶか関係なく、人生に起こるすべてが問題なのです。私たちは少しうまくいけば、少し楽になればハッピー、またちょっと辛いことがあれば不幸というように慣れていますが、救われた後、人生とは何なのかという真実に目覚めてみると、すべてが問題の人生だったわけです。しかし、そのような奴隷の人生から羊の血を塗ることによって出エジプトになりました。イエス・キリストが十字架で血を流されることによって、ヨハネ19：30、すべてを完了した、この滅びののろいの奴隷の人生が完璧に終わりました。それが救いです。それを紅海を前にして、まずその紅海が問題にならないほど、すべての問題の解決、キリストの十字架による救い、私は救われた者なのだということを先に思い出し、先に確認して、先に告白するようにしましょう。たとえ紅海で溺れて死ぬことがあるにしても。それがこれからのクリスチャンの生き方なのです。つまり、キリストの十字架によって私たちに与えられた救いは、紅海等によって取り消されることができないし、それに負けることなど一ミリたりともない偉大なる救いなのです。神様はそれを認めてほしです。それを正しく私たちに教えるために神様は今まで私たちを奴隷にしていたエジプトの兵隊を紅海の海の中に全部沈ませて、死ぬようにされました。それを見ながら、なるほど恐れることもないし、過去に捕らわれることもないし、もう本当にすべて終わったのだと確認します。サタンの策略などは紅海の海にすべて沈めるわけです。サタンはいつまでも偽りをもって”おまえはこれでだめなんだ、こういう環境だから、このように育ったのだから、今こういう問題を抱えているから、あなたはこうだ、ああだ”といつも偽りばかりなのです。それが全部紅海に沈められるようにされました。それがキリストの十字架の救いです。救いの偉大さは、紅海よりはるかに優り、紅海に負けません。それどころか、紅海そのものも祝福に変えられる不思議で不思議な救い、私たちはその救いの主人公なのです。紅海は、それを確認してもらうため、心から告白してもらうため、自分の心に判子を押すためのものです。それでヨシュアがカナンに入るときにも、ヨシュア5：9、イスラエルの民に割礼を受けさせるようにされました。そして、その割礼の意味をエジプトの恥が取り除かれたとおっしゃったわけです。エジプトの恥が取り除かれたんだよと確認し覚えて、紅海などによって取り消すことのできない、変わることのできない、以前のものは過ぎ去った、これにぜひ判子を押しましょう。

　そして救われた者はその羊の血によって以前のものが過ぎ去っただけでなくて、見よすべてが新しくなったということを確認して告白するため、それに信仰による判子を押すためなのです。

目の前に紅海があっても、紅海を見る前に、これが分かれるかどうかということを計算する前に、まず十字架の血潮による救い、すべてが新しくなった、ローマ8：2、死と罪の原理から解放され、いのちと御霊の原理に捕らわれるようになり、何一つ問題になることができない世界に導き入れられたものです。すべて新しくなりました。あなたがたは、聖霊が宿る神の神殿であることが分かっていないのか。このように新しく造り変えられました。なので聖霊が宿ることによって、ローマ8：15、創造の神様をアバ、父と呼ぶことができる神の子どもとして身分が造り変えられました。これが何を意味するかというと、エペソ1：3、天にある霊的すべての祝福をいただいている者なのです。目の前に紅海があっても。なので当然、ローマ8：37、どんなことがあっても圧倒的に勝利するしかないし、ローマ8：28、すべてを働かせて益としてくださる人生に造り変えられ、すべてが新しくなりました。以前は何もかもが問題でした。今は何もかもが答えなのです。騙されないようにしましょう。紅海が問題ではなくて、その紅海を作られた方、紅海を分けることも、元に戻すこともできる方で、私はその神の子どもなのです。その神の御手に捕らわれているものであり、その神様に導かれる神の子どもです。そのことを問題の前でなければ実際的には判子を押すことがなかなか難しいのです。だから、神様は一番最初、不可能に思われる紅海の前に連れて来られることによって、これからあなたがたは新しい生き方を身につけて行かないといけませんと教えていらっしゃるわけです。今までは問題があればああだ、こうだとすぐに問題と向き合ってアップアップしつつ問題と格闘するようなことしか知らない人生だったでしょう。しかし、今は神の子どもなのです。今はキリストの血が塗られて買い取られた尊い神の民なのです。だから、違います。今までは神様がいらっしゃらなかったけれども、今は神があなたがたの父であり、神があなたがたの盾であり、神があなたがたの岩であり、神があなたがたの避難所であり、神があなたがたの力でありすべてなのだから。その生き方を切り変えましょう。これが紅海の正体です。どんな問題があるのでしょうか。問題に脅かされないで、その問題の前で落胆して崩れることなどせずに、その正体を正しく理解して、逆にその紅海によって判子が強く濃く押されるその祝福を祈りたいと思います。

2.その結果、紅海というものは今までとは違って、これからは神様ご自身を主人として迎えて生きる生き方への修正、それが紅海の目的なのです。

　以前は自分が自分の人生の主人でした。だから、自分のレベル、自分の限界、自分の計算に閉じ込められて生きるしかありません。それが正しくないとは言えませんけれども、それは限界だらけであって、この世を生きるにふさわしいものではありません。それから、霊的に申し上げますと、自分が主人というのもおかしい話です。人間というものは神様ご自身が主人なのか、悪魔が主人なのか、この2択の他にはありません。ならば自分が主人ということは、よくよく考えなければなりません。神様が主人ではないので、自分が主人と威張っているでしょうけれども、それは悪魔、サタンが主人になる人生なのです。それで神様はわざと自分のレベルで計算してみると、到底不可能な紅海のような状況を許されました。そこで自分を捨てて、これからはキリストを主人として生きる。これが本来の人間の生き方であり、これから荒野を通ってカナンでの勝利のために必修なのです。人生は自分で頑張って生きるものではなく、キリストを主人として迎えることです。そこに平和があり、勝利があり、安心があります。自分を捨てて、キリストを主人として迎えるそのときに、ダビデのように、詩編の記者のように死の影の谷を歩いていても、それに勝利できるわけです。主は私の牧場の羊飼いであり、私には乏しいことがありません。そのような告白ができる者こそが人生に勝利することができるのです。Aという問題があればA、BがあればB、CがあればC。いつまで？死ぬ時まで？残念ながらクリスチャンなのに。結局旧約に紹介されているイスラエルの民と同じ道をただるようになるしかありません。それは非常に残念で悔しいことです。イエス・キリストが皆さんのために十字架で血を流されて死なれました。私たちはイスラエルの民ではありません。キリストにあって新しく造り変えられて、聖霊が宿る神の神殿となっている尊い存在なのです。だからキリストを主人として迎えて生きるのです。今日の聖書を見ていても13、14節でこのように言われています。「モーセは民に言った。「恐れてはいけない。しっかり立って、きょう、あなたがたのために行われる主の救いを見なさい。あなたがたは、きょう見るエジプト人をもはや永久に見ることはできない。主があなたがたのために戦われる。あなたがたは黙っていなければならない」。自分を捨ててキリストを主人として迎えて生きる生き方が紹介されています。初代教会の場合は、本当に四面楚歌以上の厳しい状況であり、特にユダヤ教という鉄壁中の鉄壁の宗教が立ちはだかっていました。そこで最初、弟子たちもイスラエルの民のように勘違いして、「いつ私たちの国が独立するのでしょうか」と聞いたときに、イエス様はおっしゃいました。「それはあなた方は知らなくてもいいよ。あなたがたは違うのだよ。これから生き方を変えなさい。聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまで私の証人となるよ」と。ユダヤ教の不可能な壁があったのにも関わず、その約束を握ってキリストを主人として迎え、タラッパンに集まり、祈りに専念していた結果、そのユダヤ教という紅海は分かれるようになります。神様の奇跡を見ることになりました。これが私たちの生き方なのです。自分の小さな頭、自分の気持ちというものに捕らわれていてはいけません。それは以前の生き方です。神を離れていた時の。

紅海の正体は、キリストを主人として迎えて生きる、その新しい生き方に切り替えるための神様の作業にありました。ただの問題ではありません。でも、この紅海をしっかり訓練を通して通っていかないと、次にまた紅海、また紅海なのです。紅海の正体が分かっていないと。紅海は私たちを脅かすものとなり、とまどうしかないものになります。信者なのにいつまで経ってもその人の頭の中ではそのようにしか映らないのです。そこを切り替えないといけません。それは悪魔の偽りです。虚像です。

　今現在の自分のレベルや、自分が計算したときに到底無理、到底不可能だと思われることがあるでしょうか。それはもしかして自分の内側にあるかもしれません。健康の面でそういうことが見られるかもしれません。また、経済や家庭の様々な事情がそのように映るかもしれません。人間関係のいろいろな問題などがそのように思われるかもしれません。それで私たちは表ではキリストと言いながらも、心の本音のところでは落胆してため息をしているのではないでしょうか。なぜ神様..イエス・キリストを信じたのに...と嘆いていらっしゃるのではないでしょうか。そのすべてを今日限り、全部切り替えて、その正体を考えて良かったと告白しましょう。その前で、偉大なる救いに判子を押そうじゃありませんか。なのでその前でガラテヤ2：20を告白してください。私は十字架とともに付けられました。もはや私が生きるのではなくて、私の中にキリストが生きていらっしゃいます。これからはわたしを愛して、ご自分のいのちを捨てられたそのキリストを信じる信仰によって生きます。世の中の人たちはこの救いのいのちがないので、太陽から、自然から、様々なところからエネルギーを吸収しようとして瞑想しています。それは悪魔のしわざです。私たちはこの世の中とエネルギーの交換などをするものではありません。キリストがいのちです。キリストが力なのです。キリストに満たされることで十分なのです。どこか自分が空しい、足りないところがあると思うとき、それがキリストで十分にならないと、世の中の人のように修行などを通して、何か違うところで、何かを求めようとするのです。そこで悪霊が付けこんできます。そういう危ない橋を渡ってはいけません。そうする理由もありません。現状がどうであれ、皆さんに弱さがあろうが、キリストで十分で、だから、聖霊に満たされるように、ガラテヤ2：20を告白するチャンスにしましょう。それが正体です。救いの偉大なる祝福、紅海などに負けない、はるかに優る、キリストの十字架による救いに判子を押しましょう。これが私のものなのだと。

　そして、キリストを主人として迎え、本当にキリストに任せ、キリストに満たされるように。そういうチャンスとして神様が許されたものなのでよかったと受け止めるようにしましょう。そこに神様の奇跡を体験するようになります。奇跡そのものが目的であり、目標ではありません。カナンに向かっていかないといけないので。カナンに向かうためですから。今の私たちにとってカナンはなんでしょうか。マタイ6：33です。何を食べるか何を飲むか何を着るかといった、そこらじゅうの世の中の人と同じ理由、同じ目的ではなくて、神の国と義を求める人生、福音宣教のために残りの生涯を生きていく。世の中や人を助け、証人として生きることのために私たちが救いの祝福に判子を押して、キリストを主人として迎える生き方に切り替えるときに、神様は紅海が分かれる奇跡を今も私たちに与えられ見せてくださることを固く信じます。奇跡を求める理由などはありません。当たり前なことなので。しかし、紅海という問題を見てその紅海に捕らわれるといけません。紅海の問題は、紅海よりはるかに優る救いを見なさいというサインなのです。それを先に思い出して、状況がどうであれ、痛みがどうであれ、歯を食いしばってでも先に告白することを生き方にしなさいということなのです。やってみてください。紅海が分かれる神の奇跡がそこに待っています。紅海はカナンに行くための旅程の最初の壁でした。その正体を正しく契約として握って、ぜひ勝利していただきたいと願います。

（祈り）

恵み深い天の父なる神様。ありがとうございます。悪魔は以前の私たちを揺さぶることによって問題そのものに捕らわれるようにして、信仰から私たちは引き落として落胆させようとしていますが、しかし、救われた私たちにとっては問題が問題よりはるかに優る救いを思い出させる材料であり、そこに判子を押すための神の作業であり、キリストを主人として迎える新しい生き方、勝利の生き方へと切り替える神様の導きであることを今日教えられました。この契約を握って、具体的に実践することによって紅海が分かれる神の奇跡をひとりひとりが体験できるように祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン